

聖母愛児園報

2018年9月18日発行
〒231-0862
横浜市中区山手町68

自立支援と高校生会

子どもから青年への橋渡し

祝優勝 ソフトボールチーム

畜産作業体験

自立支援と高校生会

子どもから青年への橋渡し

事業報告書より

就労希望児童にフエスタートと協同して就労支援を実施、進学希望児童に向けて奨学金学校の紹介、就労先・居所が定まらない児童を担当する職員に対して、児童の学校に同行



ど根性料理塾

してカンファレンスに参加し、児童と定期的に進路相談を行いました。また、フエスタートの協力を得て、高校生を対象に社会体験ツアーを実施。新たな試みとして、退所者の職場を訪問し直接話を聞く機会を設けたことで、参加児童の刺激となったようでした。アフターケアを組織的な取り組みとするため、施設内研修で児童担当職員からアフターケアの事例報告を基に、アフターケアの必要性と取り組みについて話をして貰った。また、アフターケアを行う職員の負担軽減を目的に、アフターケアにかかる費用の予算化を計画、次年度からの施行が決定しました。更に他施設見学に行き、他

施設の自立に向けての活動を学ぶとともに、委員会の活動の必要性を再認識することができました。パソコン教室、ど根性料理塾、集まろう会は、継続事業として定着してきました。高校生会は、高校生達の居場所となるよう、雰囲気づくりの配慮や活動内容の工夫をした。自立に向けた様々な観点からの学びを得るための座学と、積極的に屋外へ出てアウトドアやレクリエーションを行うフィールドワークとで構成し、月に1回以上の活動を展開しました。6月には昨年同様、男女別れての宿泊行事を実施。女兒は敷地内の地域



社会体験ツアー

交流ホールにて映画鑑賞をしながら夜中まで語り合いました。一方、男児も今回は希望があり、日頃の学業やアルバイト等に勤しむ多忙な高校生活の息抜きとなるように、空きホームを利用して映画鑑賞や語り合いをしてのんびりと過ごしました。高校生だけで過ごす機会がほぼ無い日頃の生活のため、男女それぞれ様々な話題で語り合い、良い時間を過ごせた様子でした。8月には日帰りで川遊びに行きました。希望を募ったところ3年生児童がほぼ参加となり、自立に向けた話や進路の進捗状況の確認などをする事ができました。3年生の参加児童からは「良い夏の思い出になった。これか

ら進路に向けて頑張れる」といった前向きな声が聞かれました。

10月にサバイバル活動を実施。男児1名女児3名の4名の児童と引率職員3名の合計7名で、伊豆半島へ1泊2日のキャンプ活動に出掛けました。これまで同様、キャンプ道具以外に、食料は米と最低限の調味料のみ準備して、食材はほぼ全て自然から調達してくるという設定で実施。しかし、様々な不安要素を鑑みて、これまでより安全性の高い設定とした事が裏目に出してしまい、参加児童から物足りなさを訴える声がありました。また、動機づけが中途半端となつてしまい、初参加の児童が常に携帯電話を片手に活動している状況があり、日常から離れての活動になりきれなかった点が反省点となりました。

11月には職員をもてなすバーベキュー

◇寄附金報告◇

2017年度 ¥5,530,212-
(内バザー¥863,035-)

- 聖母愛児園ホームページにて、公開中です。

ーを実施。食材の買い出しから高校生達で行い、皆で相談しながら役割分担をしていました。この活動も毎年恒例となつているため先輩児童が後輩児童に指導や助言をする様子が見られ、良い雰囲気を感じられました。

聖母愛児園バザーの際に高校生会が一任されてポップコーン販売を行いました。文化祭さながらに皆で役割分担をして準備に取り掛かり、良い雰囲気で作成などを行い、バザー当日もほぼ売り場を離れる事なく、準備から片付けまでを皆で協力して行う姿が見られました。職員がフォローをしたのはごく僅かであり、高校生達の力が十分に育まれている事を改めて感じた機会となりました。

2月には、こちらも毎年恒例の性教育活動を行いました。高校生達の生活課題を改めて確認し、昨年度同様、



地域の方とスイカ割り

日頃の生活に役立つ内容を学びました。社会人になつた際の身だしなみに関する講話と、昨今のSNSの絡みの各種事件も取り上げて、携帯電話やコミュニケーションツールを利用する際の注意点を伝える講話の二本立てで行いました。

自立サポート委員会と連携しつつ、自立に向けた情報提供や社会体験ツアーへの参加、2月のあつまろう会へのスタツプ参加も実施。今回は部活動や学校行事が重なり、参加高校生が少なかったのですが、参加した児童は、顔見知りの卒退園生や元職員が多かったです。卒業の生活の様子を先輩から聞いてイメージを膨らませている様子が見られました。



遂に…決勝にたどり着きました。この大会中にも皆が大きく成長したと感じられ、試合前から感慨深い思いがありました。また、ここ数年、毎年交流をしている隣施設は、前日に初戦敗退してしまいましたが、なんとうちを応援したい、という思いで2日目の全試合

を応援してくれました。しかも、見守るだけでなくベンチ裏からたくさん声援を送ってくれ、子ども達は本当に心強かつたと思います。E施設職員さんに聞いた話では「聖母を応援しにいくんだ！」との子ども達からの強い訴えがあり、来る事にしたそうなのです。本当に感謝です。

連戦で、さすがに疲れの色が見え始め、特に連投のAは試合前から眠気を訴えるほどの状態でした。しかし、眠気を感じるほどのリラックス状態が、逆に自然体でプレーする事に繋がったように思います。相手投手はソフト部所属で本格派の投手でした。しかも、相手が先攻で、初回にいきなりの3失点となりました。今大会、相手に先制を許したのも初だったので、弱気になり負けパターンに陥つてしまわないかと不安がよぎりましたが、その裏の攻撃で打者一巡の猛攻を見せ、6得点で見事に逆転をしました。次の回で再び3失点して同点となりましたが、相手があつた勢いに臆したようで、投手が早くに交代し、その結果、リリース投手の制球が定まらずに四球が連発し、走者が溜まつたところで打つて返す形で一気に突き放しました。

終わつてみれば15対6という大勝となりました。最後のピンチも左中間寄りの飛球をセンターSが好捕して試合終了となり、最高潮のボルテージで優勝を決める事ができました。



優勝旗と選手たち

チームのスローガンを「one for all all for one」と掲げ、皆がやれる事を皆のためにやつた事で優勝を掴み取る事ができました。ソフトボールを通じて、皆が大いに成長を遂げた夏になったと感じています。この経験を日頃の生活にも活かして、より充実した人生となるように日々成長して欲しいものです。

畜産作業体験

畜産作業の手伝いをさせて貰い、搾乳や子牛にミルクをあげる、鶏の卵集め等体験しました。普段と違う生活の中で、子どもたちは、優しきや思いやりを表現したり、挨拶などのコミュニケーションも素直に表現できたりしました。



搾乳体験

◇子どもたちの様子◇

聖母愛児園イベント記録
<http://seiboaijen.com/blog/>
 聖母愛児園Facebookページ
<https://www.facebook.com/seiboaijen>